

## [担当教員]

末包伸吾（教授）中江哲（客員教授／武庫川女子大学）浅井保（助教）

## [Teaching Assistant]

宮本莉奈（A71）長央尚真（A71）加藤千悠（A71）

## ■課題概要

課題主旨：ニュー・ミュージアムを、神戸の都心・三宮に設計する。ニュー・ミュージアムという設定は、以下の2023年現在のアート・文化分野での鍵語・論点について、設計者が自覚的に応答することを要求するものである。各自、これらについて先行事例や関連論考など調査し考察し、教員・TAとの議論を経た上で、現代のミュージアム設計を進めていくことを期待している。これらの鍵語・論点に対して、否定的／肯定的な様々な態度があり得るが、考えない態度はあり得ない。

## 鍵語（キーワード）リスト

- Site Specific 場所特定的、Contextual 文脈的
- Regionality 地域性、Locality ローカリティ、Sense of Place 場所性
- Anti / Post White-Cube 反／脱ホワイトキューブ
- Thematic Curation テーマに基づくキュレーション、Project-Based プロジェクト・ベースド
- Casualty 日常性、Popularity 大衆性、Pop Culture ポップカルチュア、Subculture サブカルチュア
- Theatrical 演劇性、Performance パフォーマンス、Performativity 行為遂行性
- Physicality / Embodiment 身体性、Tactility 触覚性、Sensuousness 感覚性
- Audio-Visual オーディオ・ヴィジュアル、Media Mixture メディア複合
- Gender ジェンダー、Sexuality セクシュアリティ、Ethnicity エスニシティ、Nationality ナショナリティ
- Post Imperialism ポスト帝国主義、Post Colonialism ポスト植民地主義、Anti-Racism 反レーシズム
- Diversity 多様性、Pluralism 多数性、Multi Culturalism 多文化的
- Participative 参加、Collaborative 協働、Collective 集団、Common(s) 共用／共有
- Ecology 生態学、Ethology 倫理学
- Sustainability 持続可能性、Regenerative 再生／回生 など

## 参考図書：

- K. リンチ「時間の中の都市」、R. コールハース「錯乱のニューヨーク」  
D. ハイデン「場所の力 パブリック・ヒストリーとしての都市景観」



課題敷地

敷地は、左下図に示すとおり、南の「旧居留地（明治維新前後の都市形成秩序）」と、北の「三宮センター街等（第二次世界大戦後の都市形成秩序）」との、せめぎあい・軋轢が集約される区画であり、神戸の東西の中心軸「フラワーロード」にも面している。そのフラワーロードとは明治4年（1871）までの「生田川河川敷」である。この生田川付け替えという大土木事業は、外国人居留地保全の観点からいわば外圧によって進んだものだが、その後現在に至る神戸・三宮の都市構造を決定したといえる。付け替えられた新生田川は昭和に入り一旦暗渠化されたが、その結果、阪神大水害（1938）の際に大氾濫を引き起こし、その後再び開渠となつた。この氾濫では、三宮も1.5m超の浸水を被っている。敷地の北東対面には阪神・淡路大震災（1995）で全壊し、その後1999年に再建を果たした「神戸国際会館」があり、その足元は地下鉄駅「三宮・花時計前（2001開業）」に向けてオープンカットされている。駅名の由来である「花時計」は、市民有志の募金や拠金に基づき1957年に神戸市役所前に設置された戦災復興と国際交流のシンボルであり、フラワーロードの名の由来ともいわれている。花時計は市庁舎2号館建て替え工事（震災被災を遠因とする老朽化・陳腐化のため）に伴い、2019年に下記「東遊園地」南端に移設された。フラワーロードを南下すれば、「慰靈と復興のモニュメント・1.17希望の灯り（2000設置）」があり、その北西に広がる「東遊園地」は震災の犠牲者鎮魂・慰靈のために始まった神戸ルミナリエのメイン会場となる。敷地を西進すると、戊辰戦争中の神戸事件（1868）の舞台となった「三宮神社」がある。神戸事件は国際都市Kobeの端緒をなす出来事（明治新政府最初の外交事件）である。北上すると、JR「加納町第一架道橋」や阪急「神戸三宮駅ホーム上屋」など、神戸大空襲（1945）時の銃弾痕を遺す構造物が、現役として日常的に使用されている。敷地内の播州信用金庫三宮支店敷地には、村野藤吾設計の美しい建物が建っていたが、耐震性能の不足を理由に震災後解体された。、、、まだまだある。

近年の動向としては、「都心・三宮再整備」構想のもとに、2016年より「計画敷地」北に接する「三宮中央通り」の歩道空間ではKOBEパークレットが運用されている。2020年には敷地の西に「三宮中央通り地下駐車場」と地上を結ぶ屋外イベント会場「三宮プラッツ」が新設された（歩行者昇降口の改修）。2022年には、中央通りKOBEパークレットと三宮プラッツは、エリアマネジメント「まちなか×カフェ&レストラン」社会実験の場となり、COVID19・パンデミック（2019～）後の都市屋外空間のあり方が模索されている。、、、これからもつづく。

このような、歴史的に錯綜・重層して、絶えず上書き更新されるコンテクストを読み解き、「神戸」というコンテクストにおける／「神戸」というコンテクストのもとでの、ニュー・ミュージアムを設計してほしい。自らの設計もまた、コンテクストに描き込まれ得るという自覚をもって取り組んでもらいたい。

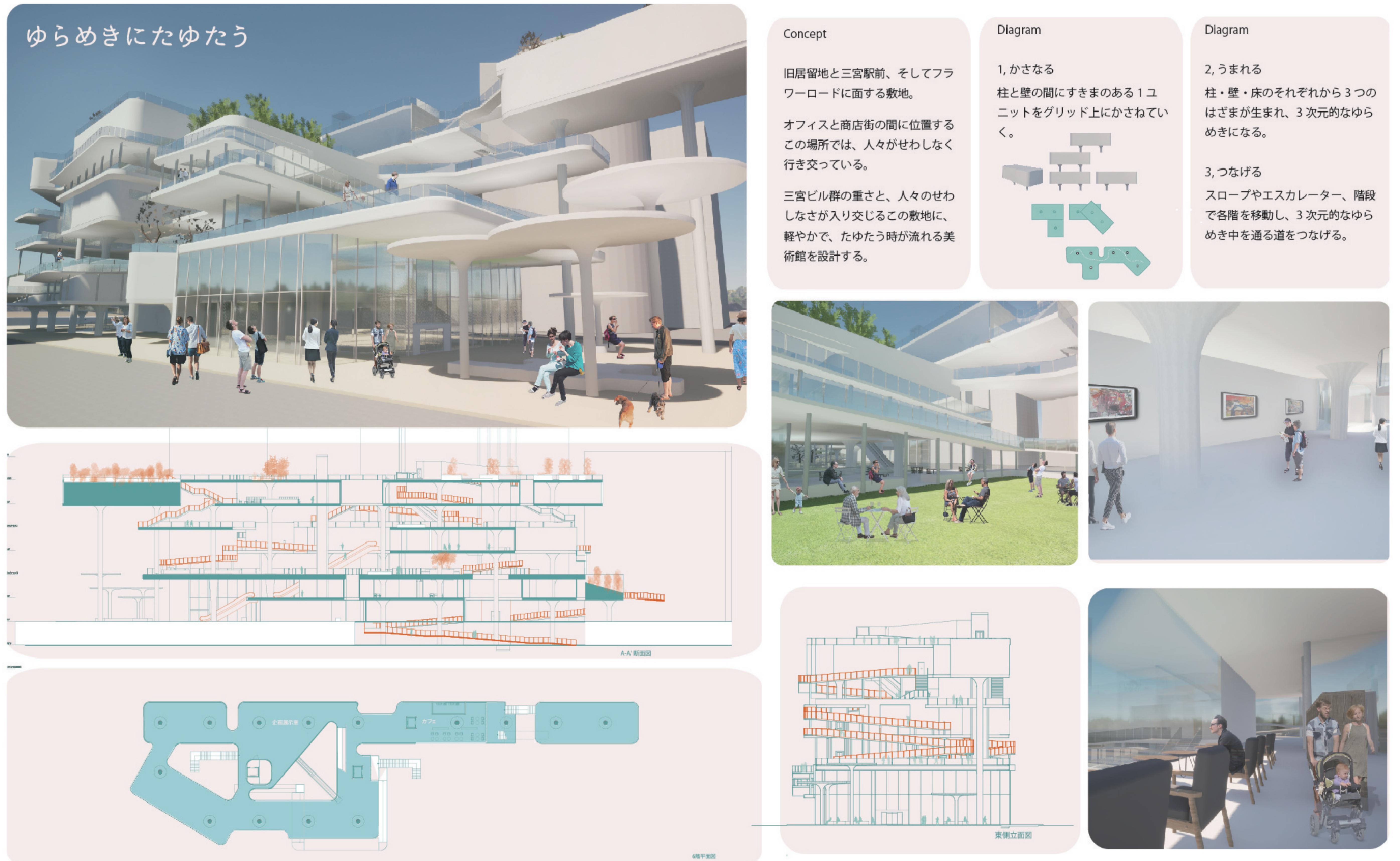
## ■建物概要

規模・構造：延べ床8,000m<sup>2</sup>程度。地上階の階数は自由。地下階は周辺の既存地下空間を前提として、それらとの接続方法や改変提案をすること。原則としてRC、SRC、Sのラーメン構造。大規模木造も可。プログラム：神戸市の文化の拠点となる施設。テーマに基づく展覧会企画に応じて「作品」を借り入れる運営とし、企画は、様々な国内・海外のコレクションからの借り入れを想定。長期借り入れの前提で、常設的に展示する特定の「作品」を想定して、特定の展示空間を用意してもよい。「搬入搬出・荷解き荷捌き・一時保管」のためのスペースは十分に確保し、セキュリティには慎重な配慮をすること。また、制作の場（「アトリエ」、「アート（アーティスト）・イン・レジデンス」）を設けて、オリジナル・コレクションを創造していくことを想定してもよい。この場合はオリジナル「作品」の保管・収蔵について、よく検討すること。

# ゆらめきにたゆたう

西浦咲季

神戸三宮駅前の重たい建築と、せわしなく行き交う人々が交わる場所に、かろやかにたゆたう時が流れるような美術館を提案する。美術館全体を大きく旋回するスロープでテラスと内部空間を行き来する。壁と柱のはざま、床と床のはざまから浮遊感が生まれる。

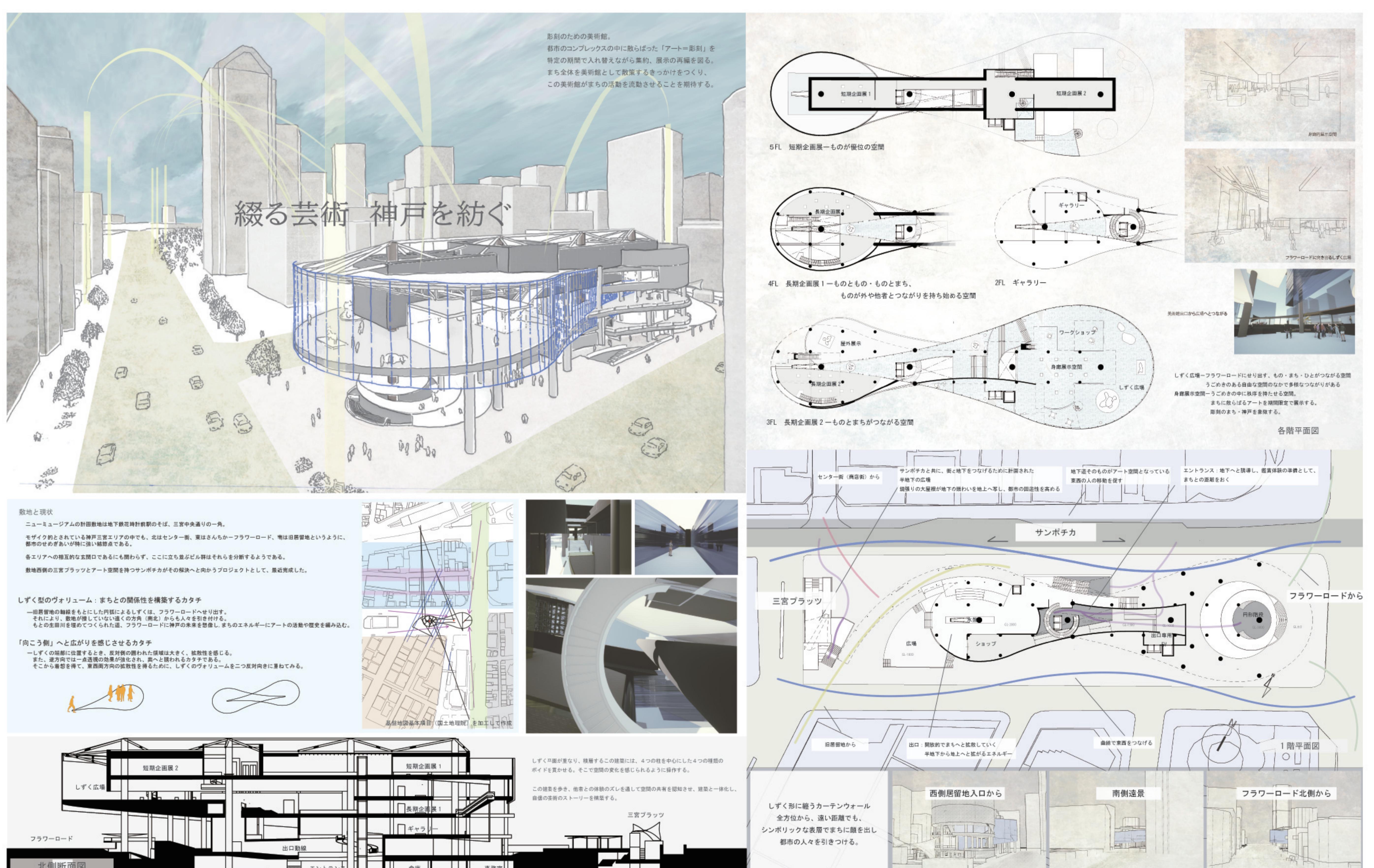


\*ベースの添景は、建築バース.com (<https://kenchiku-pers.com/download/>)、skalgbbar (<https://skalgbbar.se/>)、mrcutout.com (<https://www.mrcutout.com/>) より引用

# 綴る芸術 神戸を紡ぐ

磯野巧輔

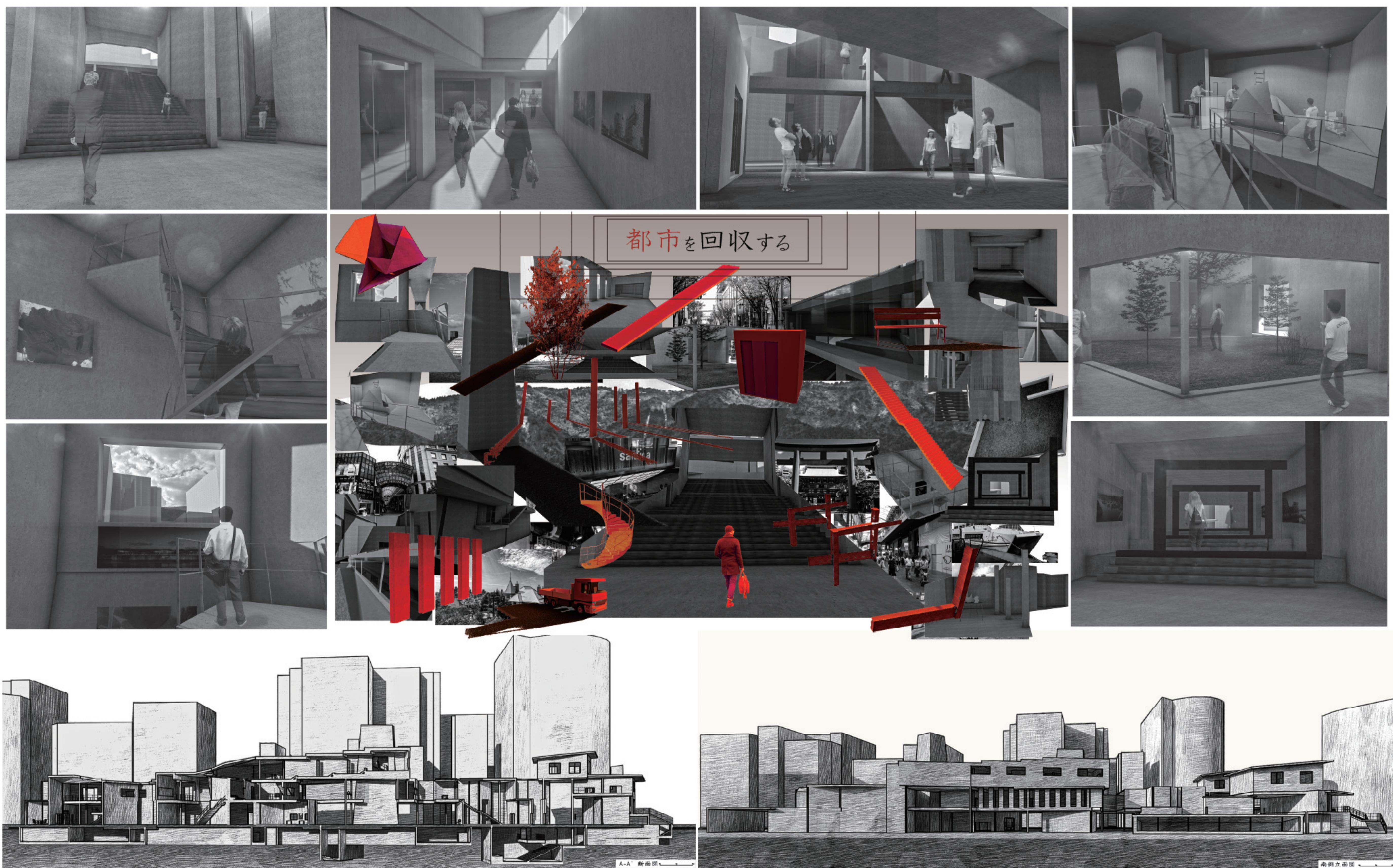
彫刻のまちー神戸にはたくさんのアートが点在している。敷地は神戸の中でも都市のエリアのせめぎあいが強い。そこに彫刻のための美術館を計画し、この建築によってまちに散らばるアートと都市の流動が同時に再編され、相乗してまちのエネルギーが生み出される核となることを目指す。



# 都市を回収する

吉川日々輝

都市に存在する様々な軸を吸収し形態を決定する。特色ある街がモザイク状に広がる神戸の新たなピースとして、既存の地下通路との連携を図るとともに敷地から期待できる風景を意識的に感じることができるよう考慮する。芸術に浸りながら都市に残る魅力を回収してくれることを望む。



# 記憶の楔～新たな思想を受容し変容する都市としての神戸三宮の記憶の継承～

芝崎琉

様々な要素が絡み合う都市三宮に都市の歴史を感じる美術館を設計する。雑多な日常に対して非日常である美術空間へと誘う前室を旧居留地の軸に沿って設定し、美術空間を異質なものとして感じると同時に神戸の都市軸の変遷を感じる。

